



広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

気をつけよう

夏場に多い水の事故

暑い夏の到来。プールや海、川などの水辺に出かける機会が多くなる時期ですが、同時に水の事故が増える季節でもあります。水辺のレジャーではルールを守って、楽しい夏を過ごしてください。

平成12年中に全国で発生した水の事故件数は1813件、水難者数は2191人で、うち1006人の方が亡くなっています。このうち事故件数の約6割にあたる1012件が、6月8月の3カ月間に集中しています。また、夏の事故発生場所として、海が53件、河川が286件で8割を占め、内訳は、水泳中が345件、釣りや魚とりが162件、水遊びが138件と、主にレジャー中での事故が多くなっています。

- ◆欠かさず準備運動を 泳ぐ前の準備運動は不可欠です。また、自分の体力を過信せず、体調の悪いときは泳がないようにしましょう。
- ◆保護者は子どもの監視を 水辺で子どもだけが遊ばないように、必ず保護者(大人)が同行し、子どもから絶対に目を離さないでください。
- ◆危険個所には近づかない 海や川では、急な深みなどがあるので注意しましょう。遊泳禁止の場所では、絶対に泳がないでください。
- ◆悪天候のときは泳がない 水の流れが速くなったりして危険です。「せつかく来たのだから」と、無理に泳ぐことはやめましょう。
- ◆飲酒しての遊泳は禁物 心臓まひなどを引き起こす原因になります。お酒を飲んだら、絶対に水に入らないでください。

水難発生時の活躍に期待



新型艇を使った相模川での救助訓練



潜水器材も充実

新型救助艇を配備

消防署では、相模川で水の事故が発生した際に迅速な救助を行うため、船外機付きゴムボート1隻と潜水器材4組を導入しました。ゴムボートは全長4.7m、全幅1.93m。出力はこれまで同署が使用していた救助艇の約3倍にあたる30馬力で、パワーを生かして速い川の流れても目的地点へ素早く到達できます。また、ボートの縁から水面までが40cmで、中からの引き揚げ作業もスムーズに行えます。一方、11人の消防隊員が県消防学校で水難救助隊員養成訓練を受け、国家資格である潜水士の資格を取得するなど、潜水器材を効果的に使用できるよう備えました。

29(日) **参議院議員選挙**
投票は午前7時から午後8時

問 選挙管理委員会事務局 (内396)

サイレン聞いたらすぐ岸へ

ルール守って川遊び

◎毎年夏場になると、相模川はたくさんの人たちでにぎわいますが、上流(津久井郡)にある城山ダムでは、降雨で貯水量が上昇したときなどに、ダムの水を放流することがあります。放流時は下流の河原で水かさが増し、人が中州に取り残されるなどの危険が生じます。このため、放流時には相模川三川合流付近(厚木市側)・あゆみ橋付近(河原口)・相模川取水施設(社家ポンプ所(社家)の3カ所)で、サイレンを吹鳴してお知らせします。このサイレンを聞いたときは、直ちに河原から避難してください。◎最近、四輪駆動の自動車などによる、川の水へ乗り入れながらの走行が見受けられます。これは他の方々の迷惑になるばかりか、自動車ごと川に流されてしまうこともあり、大変危険です。実際に海老名でもこのような事故が起きています。絶対にやめてください。



水辺では子どもから目を離さずに

浅瀬の運転迷惑危険